

市民協働によるまちづくりへ

市民討議会で10～60代の世代を超えた討議を行う

7月23日、市民学習情報センターで市民討議会が開催されました。市民討議会は、市民協働によるまちづくりを推進するため平成24年度から公益社団法人五所川原青年会議所と市の協働で実施しており、今年で5回目。無作為に抽出した1,500名の市民へ参加案内書を送付し、参加を希望した市民から抽選で決定した28名が「子どもからお年寄りまで生き活きと暮らせる五所川原を考えよう！～世代を超えた絆を深めるために～」をテーマに意見を出し合いました。



意見を出し合う参加者の皆さん。
自分達が参加したくなるような世代を超えた
交流方法の意見を出し合っています。

人口減少が進む中で、今後のより良い地域づくりのために、世代を超えて交流し、地域全体で互いに支え合うことの大切さについての説明を受け、討議がスタート。5つのグループに分かれ、①世代を超えて聞いてみたいこと、教えたいことは何か？②討議①のアイデアを基に幅広い世代が世代を超えて一緒に交流できることは何か？③討議②を実現するために企画を考える、という3段階で討議を行いました。さまざまな立場から参加者が普段感じていることについて議論し、最後にグループごとに討議結果を発表しました(概要は下表参照)。

討議会全体のコーディネーターを務めた弘前大学大学院地域社会研究科の平井太郎准教授は「難しいテーマだったが、活発に意見を出し合い、まとめられた意見はどれも創意的なものになった。他地域の討議会に比べて10代の参加者が多く、この機会自体が世代間交流になっていた。全グループを通して食文化についての意見が出ていたが、世代を超えて共通しているものであり、中でも郷土料理の継承は大切なもので、是非これをきっかけに世代間交流の輪を拡大して欲しい」と総括しました。

発表内容の概要

かまくらスタンプラリー

市内各所にかまくらを作り、そこに隠されたナゾを解きながらゴールを目指す。ゴール後には温かい料理を皆で囲み、交流する。かまくらでのクイズは各世代が協力しながら解けるものにし、交流を行う。

津軽のかまりっこ

山菜を一緒に取りに行き、料理体験を行う。津軽弁を交えながら、郷土料理を食べることによって五所川原にしかない「味」と「香り」を感じ、郷土の大切さを認識する。

スイーツバル

全世代が共通で楽しめるスイーツ巡りを行う。五所川原市内周辺を街歩きすることによって、地元の店の大切さや地元資源の発掘を行う。津軽鉄道にも協力を仰ぎ、金木方面も含めた広範囲のバルを行う。

ごしょがわらでGO

立佞武多の囃子、郷土料理体験、津軽弁講座、立佞武多の館の見学をとおして、世代間交流を行う。五所川原市の魅力を知る体験メニューを行うことによって、郷土への関心と愛着が生まれる。

みんなで「山採」GO!!

山菜採りを行い、その素材を使って料理教室を行う。山菜採りでは、採り方や旬な食材を上世代が教える立場、料理教室では下の世代が流行の料理を教える立場となり、相互の教え合いによる交流促進を目指す。

討議結果は、報告書としてとりまとめ、後日市へ提出します。

参加した皆さんから出されたまちづくりに対するアイデアは、青年会議所をはじめ市民有志の方々によって11月に事業化される予定となっています。